

2021 J3 ■順位表 ■第8節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から視て）
（注：*印は消化試合が
数字分少ない）

1	富山	17p	+6	14	8	A●
2	岐阜	16p	+9	13	4	---
3	宮崎	16p	+4	11	7	
4	熊本	15p	+4	11	7	H●
5	岩手	14p	+3	11	8	AO
6	福島	14p	+2	10	8	
1*7	藤枝	10p	+2	8	6	AO
8	八戸	9p	-3	7	10	HΔ
1*9	鹿児島	8p	-2	8	10	
1*10	長野	7p	-1	5	6	
1*11	鳥取	7p	-4	6	10	AO
1*12	沼津	7p	-5	4	9	HO
1*13	今治	5p	-2	7	9	
1*14	讃岐	4p	-8	4	12	HO
1*15	YS横浜	3p	-5	2	7	

次回HomeGame

第11節 vs.テゲバジャーロ宮崎
6/12(土) 15:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

today's guest : Y.S.C.C.横浜

2020 J3 5勝12分17敗 勝ち点27:17位

直近の対決と結果

2020/11/04
J3 - 25節@ニッパツ

YS横浜 1-1 岐阜

前田遼一 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	Y.S.C.C.横浜
2021/05/22 天皇杯@長良川球 岐阜 0-2 HondaFC	2021/05/22 天皇杯@ひたちな 流通経済大 2-3 YS横浜
2021/05/16 J3 - 08節@いわぎん 岩手 0-2 岐阜	2021/05/16 J3 - 08節@ニッパツ YS横浜 0-2 宮崎
2021/05/08 県選手権@長良川球 岐阜 2-0 岐阜SECOND	2021/05/09 県選手権@ニッパツ 桐蔭横浜大 0-2延 YS横浜

●富山・熊本と上位対決2連戦を連敗し、J3優勝争いから一步後退してしまったFC岐阜。しかし、選手たちの新型コロナ感染により開催が延期となっていた5/5(祝)第5節・ホーム沼津戦を中3日で戦った選手たちは、今季得意とするセットプレーで試合序盤に#28三ツ田啓希がヘッドで先制点を奪うと、クロスで#10川西翔太が、そしてCKで#4甲斐健太郎が、いずれもヘディングでゴールを奪って3得点。失点も1に抑え、3-1で沼津に快勝した。この試合で上位との勝ち点差を縮めた岐阜は、5/16(日)第8節・アウェイで無敗の首位・岩手と対戦。試合序盤に#10川西翔太のゴールで先制した岐阜は、#7村田透馬の追加点で2点差をつけて前半を折り返す。後半は岩手に押し込まれる時間帯が続くが、岐阜は粘り強い守備で岩手にゴールを許さず、2-0で勝利。“勝ち点6マッチ”を制し、岩手に今季初の敗戦を与えることができた。

また、5/8(土)に開催された天皇杯・県代表決定戦では、FC岐阜(トップ)はFC岐阜SECOND(セカンド)と対戦。沼津戦から中2日ということもあり、#4甲斐健太郎を残してスタメンを総入れ替えて臨んだトップ。なかなか決定機で決めきれない場が目立ったが、2-0で勝利してセカンドの挑戦を退け、天皇杯・県代表の座を手に入れた。そして5/22(土)に開催された天皇杯1回戦では、静岡県代表・Honda FCと対戦。JFLでは“(Jへの)門番”、天皇杯では“Jキラー”とも称されるHonda FCのペースに巻き込まれ、岐阜は徐々に劣勢になってゆく。そして後半には遂にCKの跳ね返りを押し込まれて失点を許すと、アディショナルタイムにも失点を許し、0-2で敗戦。FC岐阜は1回戦で天皇杯を去ることとなってしまった。今後はリーグ戦に集中して戦うほかはない。

さてリーグ戦2試合の結果、FC岐阜は一時は岩手と入れ替わりで暫定首位に立ったが、その後開催された試合で富山が勝利したため、現在は暫定2位に。こうしてみると、やはり富山戦を落としたことが既に大きな影響となっているが、終わった試合を後悔するよりも、今は目の前の試合に集中して、勝ち続けることが何よりも重要だ。

さて、今節の対戦相手は、Y.S.C.C.横浜だ。2014年のJ3創設時から参入しているが、これまで下位で低迷してしまっているチームだ。今季はドイツ出身のシュタルフ悠紀リヒャルト監督が3年目の指揮を執るが、昨季のチーム得点王だった宮本拓弥(現・藤枝)をはじめ主力選手が4人移籍して多くの若手選手を補強した影響もあって、今季のJ3で唯一未勝利、順位も15位(最下位)とチーム作りに苦しんでいる。ただし、フィニッシュの精度に欠けるために、チーム総得点がわずか2点というのが低迷の大きな原因であり、総失点7点はリーグ5位タイの成績で、熊本や鹿児島には引き分けている。したがって、得点能力が向上すれば、自ずと成績も向上してくるだろうチームだと考えた方が良さだろう。何よりも、僕らは昨季、彼らにホーム&アウェイで計3点を獲られ、1勝1分けだったという事実を忘れてはならない。またYS横浜は、先週の天皇杯1回戦で流経大と対戦し、接戦の末に3-2で勝利している。この勝利で勢いをつけて長良川に乗り込んでくるだろう。

YS横浜との対戦成績は、1勝1分・4得点3失点。9/2(水)第13節のホーム戦では、1点差に迫られながらも3-2で勝利したものの、11/4(水)第25節のアウェイ戦では、先述したように1-1で引き分け、シーズン終盤の大事な試合で勝ち点を失っている。今節は、内容でも結果でもしっかりと勝ちきらなくてはならない。

新型コロナ変異株による感染拡大で、再び各チームにも陽性反応者が出てきており、今後のリーグ戦運営は予断を許さない。岐阜県内では『まん延防止等重点措置』が適用され、岐阜市は独自の非常事態宣言を出して、感染拡大や医療体制の危機に歯止めをかけようとしている。したがって僕らは感染防止策に十分に注意しながら、可能な範囲で選手たちの後押しをしよう。タオマフやゲーフラなどの掲出(振るのは禁止)でスタジアムを緑に染め、(声は出さずに)拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。不安定な時代だけれど、そんな中だからこそ、チームの勝利が僕らに勇気と希望をもたらしてくれるはずだ。

(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第5節】岐阜 3-1 沼津

●雨ざんざのびっちゃびっちゃの長良川。こういう環境の時のあたりに水が浮いてどのあたりは浮かないのかを知るのはホームチームのアドバンテージ。さらに、セットプレーを得られれば、ドカンドカンと撃ち下してくる三ツ田や甲斐といった爆撃機編隊で敵守備隊を殲滅することが出来る。そうや！戦術なんていらなかったんや！……なあて。思い出してみれば、讃岐戦の4ゴールだって戦術で奪ったというより半分は相手GKがくれたチャンスをモノにしただけ、だったしね。

もちろん、そんなサッカーだからダメなんてまったく思っていない。今季の岐阜は「どっちに転ぶかわからない試合をこちらに転ばせて地味に奪った勝ち点3の積み重ねとして昇格という結果を得る」という地味なプロセスを志向していると思えるので、『試合内容』は勝ち点を運んでくれない」と割り切ってしまうとまったく問題なし。今後もその方針で行こう。必要なのは結果なのだ。

(吉田鑄造)

●岐阜の選手たちに新型コロナ陽性反応が出たことで、4/11(日)から5/5(祝)に代替された試合。まずは、ご迷惑をおかけした沼津関係者の皆さんにお詫び申し上げます。そして、代替開催に尽力くださった皆さんに感謝申し上げます。それにしても、またしても、大雨…。しかも、雨量が多すぎたのか、久しぶりに水たまりだらけのメモリアル。たしか、数年前にメモリアルの排水設備が改修されたけれど、芝や土を入れ替えた訳ではないので、ピッチ状態を良くするまでには時間がかかると聞いたことがある。度重なる大雨で、ピッチ状態が元に戻ってしまったのかなあ。だけど、今季は大雨の試合では勝率が良いからなあ(苦笑)。

さて、重馬場適性◎の岐阜(笑)は、この試合でも優勢。厳しいピッチ状態なので、割り切ってシンプルな攻撃とセーフティ優先の守備に。すると前半10分には、CKを#28三ツ田啓希がヘッドで叩き込んで先制点！おいおいおい、「セットプレーに強いFC岐阜」なんてフレーズ、今まで聞いたことがなかったからヘンテコな気分になってただけで、今季はホントに武器になってるじゃないですか(笑)。しかも#28三ツ田くん今季3点目って、DFなのに得点ランキング上位じゃないですか(笑)。こんな選手をレンタルに出すとか、貸し出し元はどんな優しいチームなんですか(苦笑)。前半35分には#2橋本和からのクロスで#10川西翔太がゴール前で合わせて追加点！…と、ここまではよかったが、前半44分に不用意なファールで与えたFKをヘッドで決められて失点。まあ、あの位置だと相手がボールと一緒に飛び込んでくるから、守るのが難しいのは分かるけれど、反省材料にして欲しい。1点差に詰め寄せられた後半は、「事故」が起きないかと少しヒヤヒヤしていたけれど、それを吹き飛ばしてくれたのはキャプテン#4甲斐健太郎！まあ#28三ツ田くんは先制ゴール挙げたし、#18服部康平は空中戦で勝ちまくってたので、この2人に沼津の注意が向いてる隙を狙ってのセットプレー。蹴った#41吉濱遼平もお見事でした。この後は守り切って3-1で快勝。大雨で全身ずぶ濡れになったけれど、雨の試合は3戦全勝だからねえ…(苦笑)。それと、得点こそなかったけれど#7村田透馬の活躍も素晴らしかった。雨適性◎で前線でボールを追いかけて、攻守でチームのリズムをつくっていたと思う。今頃気がついたんだけど、身体が一回り大きくなっているような…？あとは、前半と後半の序盤に1回ずつあったチャンスをモノにできてたら、言うことなかったです、はい(笑)。

そして、沼津さんには本当に色々とし訳ない結果になりまして……。そして、#11染矢一樹の出場に触れない訳には。怪我したと聞いてたので、今季も長良川には来られないかなと思ってただけで、かなり無理したんじゃないだろうか。そして、試合終了後には挨拶に来てくれて。あの「ソメ」が

J通算300試合のベテラン選手になるとは…これも、このクラブが重ねてきた歴史のひとつ、と言えるのかもかもしれません。(ささたく)

●排水環境は改善されたんじゃないなかったっけ？久々に見る『田っカー』、田んぼサッカーでしたが、そこはホーム。地の利？を活かした勝利でした。それにしても、こういう状況で、ハーフタイムに排水作業をしなかったことなんてありましたっけ？あきらめざるを得ないくらいの状態だった？それとも、ホーム・アドバンテージを作りたかった？などと邪推するくらいのピッチでしたね(苦笑)勝ってるからいいようなものの、やってる選手達には、ただ、ただ、ストレスが溜まる環境でしょう。ケガなく済んだことは何よりでした。それにしても、今季は重馬場、不良馬場巧者っぷりがハンパないな(笑)いや、サッカーに競馬用語を使うのはアレかもしれないけど。でも、本当にそうとしか言えないんだよね。さらに言えば、両チームの得点がいずれもアタマ。もはや、サッカーというよりは水球とでも言った方がいいような状況だったけれども、こういう状況だからこそ、プレス・キッカーの重要性が再認識されるワケで。イイ補強したなあ、フロント、グッジョブ！

今後のリーグ戦でも、かなりのアドバンテージのなりそうだな。『地の利』と併せて、有効に活用していかなきゃね。(ぐん)

【天皇杯岐阜予選決勝】

●15年ぶり2回目の、FC岐阜「トップvsセカンド」の公式戦だった。前回は2006年4月23日の長良川メドウ。当時、トップは東海1部だったし、セカンドは「FC岐阜/B」という登録名だった。結果は、トップ4-2セカンド。それ以来の対戦。現地観戦したかったけれど……この状況では、ね(天皇杯は県協会の運営なので)リーグのようにはいかないのです)。NHK岐阜でテレビ中継があっただけよかったと思う。試合は2-0で快勝……なのかなあ。リーグではサブに甘んじている選手が多く出場したので実戦でアピール！って感じにも受け取れなかった。相手が3カテ下だったらこれくらいは出来て当然だと思ったし、そしてその範囲から抜け出すことはなかった。

NHKの実況は、セカの選手ではFW緑を何度も紹介してくれたけど、だったら岐阜県成年代表が優勝した東京国体の決勝戦で1-0の決勝ゴールを挙げた選手だったのは紹介してほしかったなあ。

(吉田鑄造)

●天皇杯の県予選出場は久しぶり。誠に不本意ではあるけれども、兄弟対決？も久しぶり。スタメンを見た時、「え？使うの？キャプテン。」とビックリしたけど、アウェイ岩手戦は翌週だから、この起用もありかな？と。そのぶん、勝ち当たり前前として、納得できる内容が欲しかったのですよ。違いというヤツを見せつけてほしかった。いわゆる、番付の差を、ね。曰く「コレは別格だ」、あるいは「格段の差があった」、もしくは「格の違いを見せつけられた」的な試合を。当然至極なことなので三回言いました。トップ・チームはJ3でしょう？セカンドは東海2部。3枚ほどディビジョンが違うじゃないですか。それを考えると、残念の一言ですね。いや、得点差や得点数はいいんですよ。2点で十分。それを余裕綽々でやって欲しかったなあ。それと、富樫はどうしたんですか？むちゃくちゃ、カラダが重かったように見えたんですが。開幕戦のベンチにいて、交替出場したカレです。察するもの？みたいなヤツはありましたよね。それでも、点を決めるところが素晴らしい。リーグ戦でも、早いとこ決めてもらいたいもんですね。あ、コレだけは言っとかなきゃ。キャプテンだけは別格でした。一人だけ『違い』を見せ続けてくれました。こうでなきゃね。リーグ戦からの連戦で「マジかよ？」と思ったけど、次まで一週間空きますもんね。ケガなく済んでよかった。

しかし、今回を最後の県大会参加にしてもらわないといけません。トップ・チームはシードで本大会に参加がマスト。県代表はアマチュア・チームに譲ってもらわないとね。それはともかく、次は難敵・Hondaさん。とはいえ、勝ってくださいよね？ニッパツへ連れて行ってくださいね！（ぐん）

●コロナ禍の影響で、昨年は大幅にレギュレーションが変更され、出場すらできなかった天皇杯。今年は無観客試合だけど、県決勝から出場できる。ありがたいことです。そして、その対戦相手はアマチュア代表としてトップに挑戦するFC岐阜SECOND。

大雨で消耗したであろう、沼津戦から中2日。スタメンは全員替えるだろうなあ…とっていたら、#4甲斐健太郎は残したのね（驚き）。まあキャプテンがいることで、チームがまとまるという意図なんだろうなと。

セカンドの活躍も少し期待したけれど、レギュラー選手ではないとしても、トップ選手がセカンドに押されているようでは話にならない訳です。そして、この試合でアピールして、ポジション争いを活性化させて欲しいとの思いも。そして実際、守備やボール回しの部分ではトップが上回っていた。だけど、やはり攻撃面が物足りない。#11レレウの個人技で前半13分に幸先良く先制点を奪えたのはよかったけれど、それ以降なかなか決定機が作れず、作ったとしても外してしまう。後半35分に#29松本歩夢からのクロスをもつて#16富樫佑太がダイビングヘッドで決めて、2-0で勝利したけれど、もっと得点を奪って勝たなくてはならなかったんじゃないだろうか？攻撃陣がアピールできたかという疑問で……逆に、個人的には不安が増してしまったような気がしています。（ささたく）

【第8節】岩手0-2岐阜

●これぞ、今季のFC岐阜の真骨頂という試合だった。シュートはわずか2本で2点。ごつつ少ないチャンスをがつつりと活かす。先制点は川西。写真の世界の名言に「いい写真を撮る秘訣は、まず『その場所にいる』ことだ」というのがあるが、この時の川西がまさにそう。吉濱のCKが三ツ田の背中中に当たって自分の前にこぼれてくるなんて。2点目は吉濱の浮き球パスにトーマが綺麗に抜け出してしっかり振りぬいた。一方の守備では、ポジトラを大事にせず、相手の攻撃が続いても気にしない。『ガンダム』のシャア・アズナブルのセリフを借りれば「（ボールを持たれても）シュートを撃たれなければどうということはない！」とでもなろうか。結果、岩手のシュートは4本。実に鮮やかな膠着戦だ。正直言うと、これは観客が喜ぶサッカーではない。でも、ぼくは何の問題もないと思っている。今季のFC岐阜の目標がJ2復帰であるなら、必要なものはまず勝ち点であり、沼津戦のトコでも書いたけれど、『試合内容』は勝ち点を啜ってやって来るとは限らないのだ。（吉田鑄造）

●前節の沼津戦で勝利し、3位・勝ち点差1という資格を得て、無敗の首位・岩手に挑戦するFC岐阜。首位攻防戦の舞台となるアウェイ・いわスタに集まった岐阜サポは…100人ぐらいいたかもしれないです（苦笑）。

さて試合は、雨の予報が少し外れてパラついた一方、強い風が吹く中でキックオフ。前半風下の岐阜は、大きい縦のボールで裏を狙ってくる（であろう）岩手の攻撃に備えて、まずは安全第一の守備から…と誰もが思うじゃないですか？まさか前半2分に、CKでゴール前にこぼれたボールをもつて#10川西翔太が押し込んで先制点を奪うとか、僕は想定してないですよ（苦笑）。リプレイで確認すると、CKの最初は#28三ツ田啓希か#4甲斐健太郎に当たって、岩手の選手もそっちに注意が向いてるのね。今までセットプレーで積み重ねた得点が生んだとも言えるゴールで幸先良く先制点を挙げた岐阜だ

けれど、その後は岩手も勢いを取り戻して、押し込まれる場面も。それでも、守備陣がしっかりと跳ね返して決定機を作らせない。すると前半24分、#41吉濱遼平の縦パスを、裏に抜けた#7村田透馬が右足を振り抜いて追加点！いやー、首位攻防戦で、こんなに簡単（みたい）に得点が入っているのかしら（苦笑）。2点リードしたままの後半、今度は風上だからさらに岐阜が有利に…と思ったんだけど、岩手が修正してきたからなのか、それとも風の影響が大きくて予測が難しいのか、前半の岩手と同様に、ボール運びが悪くなるという…。そして、#7透馬が下がったら、それが一層顕著になってしまふ。どうやら、精度の悪い縦パスでも#7透馬のスピードなら、ボールが拾える（繋がる）のだけど…ということなのか？という事実（不安材料）に思い当たってしまった。今の岐阜の守備は堅固だと思う。そして、強いチームというのは、堅固な守備と良いセットプレーを持っているものだ。だから、年間監督はまずそこに着手して、そして一定の成果を出しているのだと僕は思う。だけど、そこから先の、攻撃面での向上や連携は今後の課題、まだ試行錯誤の段階なのかもしれないと感じた。

岩手の攻撃を跳ね返しながらかつ時間が過ぎていった後半、最後まで守り切って2-0で首位攻防戦を勝利した岐阜。試合終了直後には首位になったけれど、富山も勝利したために首位陥落。わずか1時間の天下でした（苦笑）。あと、個人的にはビックリしたのが、#10川西翔太の途中交替です（苦笑）。昨季は交替しながらキレてたから、うわっ、これは……と身構えてたんですが、あれ？普通に交替したぞ？って（苦笑）。チームが好調だからなのか、その変化は大きいなあ…。現在はリーグ得点ランキング1位で、既に替えが効かない選手になってる#10川西。無理させず、休める時は休んで欲しいと、切に思います。（ささたく）

●序盤の天王山、とまでは言えないかも？だが、無敗の首位・岩手とのアウェイ戦。それを2-0。計算通り！と言ったら、さすがにバチが当たるかな？でも、シュート2本で2点を取ったうえにクリーン・シートでの勝利なんだから計算以上！か。さらに、相手のシュートも4本に抑え、無敗の首位を引き摺り下ろしたんだから、完勝劇、かも。やっぱり、先制点だね。あと、トーマのボレーはゴラッソ！待望の2点目です。いや、よく決めてくれた。アレがなければやばかった。これでノッていけそうな気がする。演出した遼平、この試合もコンダクターでした。なんなら、今度はワタクシがビール（以下略）。ただ、風上のは後半ではシュートどころか、チャンスも作れなかったのはアレだが、一触即発な雰囲気キナ臭い試合を無事（黄紙は受けちゃったけど）に終えられたのは何より。試合数の関係で順位は暫定だが、悪くないポジションには付けている。とにかく、勝ち点3を積んでいくのみ。忘れちゃならないのは現地組の後押し。ホームのサポーターより人数多かったんじゃないか？そう思っちゃうくらい、太鼓も手拍子も向こうを圧倒してた。素晴らしすぎる！ありがとう！お疲れさまでした！（ぐん、）

【天皇杯】岐阜0-2 HondaFC

●無観客試合と発表になって、テレビ中継もなく、さてどうしたもんだらうかと結構ハデに途方に暮れていたところに、HondaFCさんからYouTubeでネット中継のご案内が。いやいやホントにありがとうございます。まずは深く御礼申し上げます。

で、試合。開始10分くらいは岐阜が面白いようにボールを拾って、「あれ、これが『格（カテゴリー）』というヤツ？」と一瞬思いかけたんだけど、もちろんそんなことはなくて。その時間帯を過ぎると、五分五分があるいはややHondaのターン。要するに、我々は「様子を視られていた」ということだ。

まったく、どっちがJ3でどっちがJFLなんだか。0-0で終えた前半終了時に「セットプレーからヘッドどっかーん！でもないで0-2で負ける試合だ」とSNSに書いたら、その通りに0-2で終わってしまった。いや、こんな予想を当てても嬉しくないんですけどね。予想を当てたらカネがかかってるタイプのものにしたよ（苦笑）。とりあえず、絵に描いたような完敗というヤツです。

「岐阜はJ2昇格が第1目標だから負け抜け」？いやいやいやいや何をおっしゃるウサギさん。やってるサッカーは普通のJ3とまったく変わってなかったよ。守備はしっかりではあるけどポジトラは雑。だから、上に書いた「試合開始10分くらい」以外は岐阜が得点を奪える気配はまったくなかった。いや、何度も書いてるけど、それが今季の岐阜のサッカー哲学（基本設計）なんだから、それでいいの。試合内容は勝ち点を運んでこないのだし。だから、HondaFCのサッカー哲学、コンセプト、スキル、それらすべてに完敗したって、別にいいの。要するにHondaFCの方が強かった、ってことなのだから。

（吉田鑄造）

●まず、初めに、試合を配信していただいたことにお礼を申し上げます。ありがとうございます、Hondaさん。何年ぶりでしょうか？前回はメドウでの天皇杯だったらしいんですが、正直覚えてませんでした。JFLでの対戦成績は五分だったと思いますが、やられた感の方が強いのは否めませんね（苦笑）でも、今回は、少しは成長した姿をお見せできると思っていたんですがね。

いや、完敗です。ホントにもう、ぐうの音も出ないというヤツ。直前のJFLでは、FC大阪に負けてたと記憶してたんで、「かつてのHondaさんではないのかも？」とあんきに構えてたボクにも、負けた責任の一端はあるのかもしれないですね。まあ、前半の序盤は柏木のらしさも出てたようですが、それにしても、どうして、あんなにトーマと合わなかったんだろう？もう、タイミングをわかりあっててもいい頃だと思っただけ。後半には何とかできるか？と思ってたけど、終了間際によく流れが来たくらいかな。そういや、ウチって枠内シュートありましたっけ？思い返せば、終了間際に好機や好機になりそうな場面もあったけど、それでも向こうのGKは焦った場面は皆無だったのでは？たまのシュートも宇宙開発だもんなあ。

あと、最後のダメ押された場面。ありゃ、なんですか？桐畑が主審に何か言っていたみたいですが、ファールとかはなかったはず。まさか、オフサイドとでも？得点者がどフリーだったのはオフサイドのセルフジャッジ……とか。いや、まさかかね。どんな場面でもそうでしょうか、ピハインドの場面守備で気を抜くとか。アリエナイよね？

ともあれ、翔太がいたら、とか、そんなエクスキューズなど、お世辞にも言えない、文字通りの完敗でした。ただ、佑太はまだまだ、カラダが重そうに感じましたが、どうなんでしょう？一日でも早くコンディションを取り戻してほしいんですが。まあ、結果は残念ですが、有意義なTMだったと思っておきます。今後のリーグ戦にしっかり活かしてくださいな。そうとしか言いようがない。

いろいろご指導ご鞭撻ありがとうございます>Hondaさん。ニッパツでの二回戦を楽しみにしています。

（ぐん）

●いよいよ始まる天皇杯。1回戦の対戦相手は、静岡県代表のHondaFC。言わずと知れた“門番”、天皇杯では数々のJクラブを倒して“Jキラー”の名もあるチームだから、JFLだからって油断してる岐阜サポは誰一人いなかったと思う。実際、2016年にも僕らは1-2で負けている。今季からプロ選手が居なくなって、JFLでは現在3位だけど、昔から“天皇杯ブースト”でも有名なチームですし、既に沼津を倒してますし（苦笑）。

さてスタメンは……ええっ、#10川西翔太がベンチにもいな

い！？岩手戦で怪我でもしたのかしら…無理をさせなかったのならいいけれど、少し心配です。そして試合序盤から、中盤でお互いに激しいボールの奪い合いが続く。岐阜が若干優勢だけれど、岐阜がボール奪取から攻撃に切り替えてHondaの守備を崩そうとする時に、どうもプレーの精度が悪くて、すぐにボールを奪われてしまう。岩手戦でも感じてたことが、やはり“J2中位クラス”とも言われる実力のHonda相手だと如実に明らかになってくると僕は思った。そして時間とともに、そのチーム力の違いが徐々に積み重なってゆき、差が開いてゆく。後半になると、3バックというよりは『5バック3ボランチ』みたいに押し込まれ、空いた中盤のスペースをいように使われてしまう。それでも岐阜は粘り強くボールを跳ね返していたけれど、後半66分にCKからの2次攻撃で上がったクロスをヘッドで叩き込まれ、失点……（溜息）。なんだか、いつものJ3とは逆の立場になっているみたいだ。その後、一気に4枚替え（！）で局面を打開しようとする岐阜だったけれど、奏功せず。アディショナルタイムにも失点。2失点とも、Hondaが右サイドからファーにボールを折り返して、そこに走り込んだ選手がヘッドで決めていた。攻撃パターンのひとつなのだろう。残念ながら、岐阜にはそういった攻撃の決まり事、攻撃パターンが、まだ見られていない気がしている。

残念ながら0-2で敗戦。まあ、HondaさんにはJ1クラブだって負けてるんだし、これでJ3リーグ戦に集中できるから平気！と強がってみる（笑）けれど、こういう強いチームと対戦して見えてきた課題を解消していかないと、今後のリーグ戦にも影響が出てきてしまう。チーム一丸となつての奮起を期待しています。

そして、無観客試合で見れない…と嘆いていた岐阜サポのためにか、公式YouTubeチャンネルで配信してくれたHondaFCさんに感謝申し上げます。できたら、2回戦でJ1・マリノスも倒していただいて、『岐阜が負けても当然だった』と言わせてください（笑）。

（ささたく）